

わかやま 景観・まちづくり新聞

VOL.15 2012.9.10

県内の景観やまちづくりに関する取り組みについて情報をお届けします。
市町村やまちづくり団体の取り組みで記事がありましたら、ご連絡ください！

発行： NPO 法人 市民のわかやま
監修： 和歌山県 県土整備部
都市住宅局 都市政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1
TEL： 073-441-3228
FAX： 073-441-3232
E-Mail： e0809001@pref.wakayama.lg.jp
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080900/

廃校のリノベーション活用

最近、生徒数の減少により小学校や中学校の統廃合が全国的に増加しています。そのような中で、廃校を活用したリノベーションで成功している東京都の事例を紹介します。

「アーツ千代田 3331」

・区立中学校(旧錬成中学校)をリノベーションした公設民営の施設。千代田区の文化芸術活動の拠点施設として、平成22年6月26日にオープンしました。文化・芸術に携わる様々な団体が入居し、活動をしています。また、一年を通じて、展覧会やイベント、ワークショップなどが実施されています。

・5年間の定期借家権による公有地の活用プロジェクトであり、事業の企画、施設の改修と運営は、「合同会社コマンドA」が実施しました。バリアフリー対策等の改修工事費の一部を千代田区が補助しています。

・施設概要：地上3階、地下1階
屋上：屋上菜園 3階：入居団体スペース、シェアオフィス 2階：入居団体スペース、貸し会議室、多目的スペース 1階：ウッドデッキ、コミュニティスペース、カフェ、ラウンジ等
地下：アーティストスタジオ、ワークショップルーム



外観



1階のウッドスペースと入り口

「東京おもちゃ美術館」

・区立小学校(旧四谷第四小学校)をリノベーションした施設「四谷ひろば」は平成20年8月にオープンしました。旧校舎には地域広場 CCAAアートプラザ等が併設されていますが、中野区より移転オープンした東京おもちゃ美術館(運営は、NPO法人グッド・トイ委員会)は、内11教室を利用しています。

・入り口部分にロッカーがあり、荷物を預けることが可能。「荷物を少なくして思う存分遊んで下さい」というスタッフの説明でした。働いている人も生き生きとした様子です。スタッフは、おもちゃ学芸員として、ボランティアで活動しています。

(資料提供 県都市政策課)



外観



2階の展示室

「和歌山市のまちなか再生」その二

和歌山市は「空洞化した和歌山市中心市街地(まちなか)の再生」を図るべく、平成10年度「第一次中心市街地活性化基本計画」を策定し、翌年にTMO(株)を設立、それ以後「中心市街地活性化」を15年間進めてきて、平成18年度からまちづくり主体が「中心市街地活性化協議会」に変わりましたが、全部で約80の事業を実施、平成24年3月で終了しました。丸正を「フォルテジマ」として再生した他、県内初めての再開発事業となった「けやきONE」などが生まれましたが、中心部の衰退に歯止めはかかりませんでした。

これらの状況を立て直すには、これまでの空店対策のような対症療法や単なる出来る事業を積み上げること等の延長上のみに解決方法を期待せずに、視点を大きく変える必要があります。

JR和歌山駅と和歌山市駅の間に「まちなか」を決め、そこに新店舗・新サービスなどの魅力的な集積を新たに創り出すような視点、即ち、「今のまちなか」に「コンパクトで魅力的な賑わいのある集積」新しい「まち」を創りだす視点や交通問題に取り組むなどの構造的な問題に視点をずらす方向を目指すべきだと考えます。

このためには、まず県都に相応しい賑わいをまちなかに取り戻すまちなか再生が重要だという「市民運動」を盛り上げ、これら市民の応援のもと、「市」と中心を担う覚悟をもった「地元住民」との「まちなか賑わい再生」に向けた合意形成と事業活動、その情報を市民に発信することが不可欠です。

この三位一体の活動体制確立に向けて継続した努力を続けていきたいと念願する次第です。

(続く)

NPO法人 市民のわかやま理事

梶谷昭治



連載コラム 高橋寛治が語るまちづくり(9)

「石畳集落で見付けるもの」

愛媛県の松山市から車で30分、内高896mの牛の峯山麓から流子町の岡田文叔さんは「足し算型から引き算型へのまちづくり」の提唱者である。

彼は役場職員の仕事を通して、町並み保存に取り組み、時には村並み保存という名前でもって、地域の再生運動に取り組んできた。振り返ってみると、「内子の町が内子の町らしくあるために」、町が持つべき特性に光を当てていくことを引き出す、自分へのある種の使命感のような形でやってきたと語っている。

私が注目したのは、この内子町の山村石畳地区での取り組みである。1987年から、世帯が130世帯、人口が300人少々の小さい集落の中で、農村の当り前の景観を意識したむらづくり運動に取り組んできた。

「豊かな暮らしを未来に」をテーマとして、石畳の40〜50代の人たちは、自分たちの子や孫に何が残せるのかを考え、地域資源をしっかりと意識しながら集落を形づくって行く挑戦を始めた。その取りかかりは、昭和30年代まで地域の原風景として回っていた水車であり、それを皆で作って地域のシンボルとすることであった。

集落の一番奥で静かに回る水車の横には「水車事始め」と題した碑文が建ててある。「こは、脇川水系麓川の支流である通称清水川と

呼ばれるところ。背後に見える標れ出る清水が豊富など。水車は、山村で見られる科学の粋、わずかな水の流れを利用した天然エネルギーで精米、製粉、そして製材まで活用した。その水車も今では電気に変わり、姿を消した。この水車は石畳地区にとつては農村文化のシンボル。



高橋寛治氏プロフィール
高野山大学客員教授
埼玉大学教養学部非常勤講師
元高野町副町長

石畳地区は特に変わったことのある集落ではない。一本の川の水でも水系の地形に合わせて取水口を作り、最後は元の川へ戻す。すると反対側の水田へと水が回ってゆく。農村は沢山の知恵と技術の集積地であり、この当たり前のことに気づくことから村の美しさは価値を持つことを教え

(続く)

景観・まちづくりイベントの紹介

2012年9月23日(日) 14:00~16:00 (和歌山市)

・食へ歩き! 飲み歩き! 観て歩き! プレバル ええとこ発見

主催:和歌山市 共催:わかやま城下町バル実行委員会

食の賑わいイベント「城下町バル」。当日のイベントをより一層楽しめるよう、事前に「バル」の基礎的知識を身に付けるとともに、まちなかの隠れたスポットを探し歩くまちあるきを開催します。城下町わかやまを様々な視点から見つめ、まちなかの魅力を再発見してみませんか。

<集合場所>フォルテワジマ(本町2丁目1番地)
<定員等>20名(先着順)、参加無料、申込みは平成24年9月18日(火)まで
<申込・お問い合わせ先>和歌山市まちづくり局都市計画部都市整備課
〒640-8511 和歌山市七番丁23番地
TEL:073-435-1082 FAX:073-435-1367 E-mail: toshiseibi@city.wakayama.lg.jp

2012年9月27日(木) 19:00~21:00 (和歌山市)

・「2030わかやま・まちのちから塾」第5回セミナー&セッション

主催:和歌山市都市整備課 (TEL:073-435-1082 FAX:073-435-1367)
開催場所:和歌山市役所 14階大会議室

2012年11月4日(日) 13:30~16:30 (和歌山市)

・わかやま近代化遺産フォーラム2012

主催者:和歌山県文化遺産活用活性化委員会(事務局-県教育庁文化遺産課内)
近代化遺産とは明治から昭和戦前に建設された、わが国の近代化に貢献した産業・交通・土木などの建造物で、私たちの生活の向上にも大きな役割を果たしました。これらは近年観光資源や魅力的なまちづくりの核として関心を集めています。今回のフォーラムでは県内の遺産を紹介するとともに、その価値や魅力を広く知っていただくために開催します。

<講師> 二階堂達郎氏(大手前大学教授)
<パネルディスカッション> 本多友常氏(和大学教授)、中村作太氏(近代化遺産所有者)
<場所>和歌山県立近代美術館AVホール(参加費)無料
<参加方法>10/1(月)~10/26(金)の間、FAX・メール・往復葉書で申し込みください。
<申し込み先>和歌山県教育庁文化遺産課保存班 和歌山市小松原通り1-1
FAX:073-441-3732 E-mail:tanaka_0052@pref.wakayama.lg.jp

詳細は、「みんなで作る情報板 わかやまイベントボード」をご覧ください。
http://eventboard.shiminjuku.jp/ (NPO法人市民のわかやま管理・運営)



ふるさとフォトグラファー

7・8月の入選作品より



8月テーマ投稿:お盆・祭り・花火

「粉河祭りの静と動」(3枚組み写真より)
kawasemi_884

入賞作品へのコメント:
この写真は、すぐに引き付けられました。表題だけでなく、解説文が魅力的です。時間の流れが表現されていて、しかも、上手いと思います。ぐったりしている最後の写真で、臨場感が伝わってきました。

「きのくに風景讃歌」の「ふるさとフォトグラファー」のページでは、ふるさと和歌山県のすばらしい景観や町並み、建造物、文化遺産などの写真を募集しています。

「景観・まちづくり新聞」のバックナンバーは「きのくに風景讃歌」のサイトからダウンロードできます。
「きのくに風景讃歌」
http://www.kinokuni-sanka.jp/



NPO法人市民のわかやま

〒640-8215 和歌山市橋丁21番地N2ビル3F
TEL/FAX 073-428-2688
URL http://shimin.or.jp/
e-mail info@shimin.or.jp
受付時間 月~金 9:30~16:30 ※土日祝休み

